

第43回 季例会・公開講演会

水の得にくい台地でどうやって水田をつくったのか？

—地理学と文献史学の学際研究から—



平成31年

日時： 3月18日 月

13:30～15:30

無料

場所： 文学研究科（文学部）
B104 講義室

講師： 広島大学大学院教育学研究科
准教授 熊原康博氏

【概要】

江戸時代の人々は、水の得にくい台地で、水田をどうやって新しくつくったのだろうか？本発表では、広島県中部、東広島市西条盆地南部柏原地区を対象として、広島県立文書館が所蔵する国郡志御用書上帳や絵図の読解と、現地での水利及び地形調査に基づいて、化政期における新田開発初期の進捗過程を報告する。当地区では、開発後も水不足に苦しんできたが、その地形的な原因について、また水不足解消を試みた村人の苦勞の跡についても紹介する。柏原地区と、黒瀬川を挟んだ東隣の三升原地区とは、同時に開発が進められた「双子」の開発地でもあった。その証拠を両地区の神社境内の石造物の同一性から明らかにする。